

平成30年度の宮古地区安全大会（主催：沖縄県労働基準協会宮古支部など4団体）が平成30年6月14日に宮古島市中央公民館1階大ホールで開催されました。

同大会は、安全意識の高揚と安全活動の定着を目的に、全国安全週間（7月1日から7月7日）の準備期間中に開催されたもので、企業の代表者や安全担当者等約120人が参加しました。

大会では最初に、労働災害で亡くなった労働者の冥福を祈り、1分間の黙とうをささげました。

主催者からは、「宮古地区は好景気で人手不足が続き、それに呼応するように労災事故が増加傾向に転じている。各事業所は労災ゼロに向けて取り組んで欲しい」と呼び掛けがあり、当署の署長から、「平成29年の労働災害は過去最多を記録した平成28年に比べて減少したが、依然として高い水準である。セーフワーク運動を展開しているため、ぜひ参加して欲しい」と呼び掛けました。

また、沖縄労働局腰痛予防アドバイザー（株式会社アンプリワイズ代表取締役）山内義崇氏による特別講演「職場の腰痛対策で働き方を考える」では、職場でも取組める腰痛予防対策の講演が行われました。理学療法士の山内講師からは、骨や筋膜の仕組みに注目したストレッチ方法等、実演を交えてわかりやすくご説明いただき、参加者は身体を動かしながら熱心に聞き入っておりました。

大会終盤では、「これまでとは違った目線で安全活動に取り組み、新たな安全管理を見出し、それを組織力として生かし、将来に向けて安全活動を継承していく」「安全で安心な職場環境を作っていくため、事業者と労働者が一体となって安全活動に取り組んでいく」とする大会宣言を採択し、参加者全員でスローガンの「指差呼称」を行い、今後のさらなる安全活動の実施を決意しました。



特別講演の様子